

NOWPAP とは？

北西太平洋行動計画（NOWPAP）は国連環境計画（UNEP）の地域海計画のひとつとして 1994 年に採択されました。現在、中国、日本、韓国、ロシアの 4 か国が参加しています。

このパンフレットは NOWPAP CEARAC が、NOWPAP 地域調整部（RCU）および他の地域活動センター（DINRAC、MERRAC、POMRAC）の協力の下作成しました。また、このパンフレットの作成にあたっては、UNEP の「海洋環境を陸上活動から保護するための世界行動計画」の助成を受けています。

このパンフレットに掲載している情報の詳細につきましては、CEARAC が 2013 年に作成しました「NOWPAP 地域における陸域からの海洋ごみの発生抑制に係る対策・優良事例に関する地域報告書」をご覧ください。

NOWPAP 地域における 陸域からの海洋ごみ発生抑制 に関する優良事例



NOWPAP CEARAC

北西太平洋地域海行動計画

特殊モニタリング・沿岸環境評価地域活動センター

930-0856

富山県富山市牛島新町 5-5 タワー 111 6F

Tel: 076-445-1571, Fax: 076-445-1581

E-mail: CEARAC@npec.or.jp

Website: <http://cearac.nowpap.org>



NOWPAP
CEARAC

Regional
Seas

海洋ごみって何？

「海洋ごみ」とは海洋・沿岸環境中に廃棄された分解しにくい人為起源の固形物と定義されています。海洋ごみは、世界中の砂浜、海岸、海面、海中さらには海底でも見られます。



NOWPAP 地域の海洋ごみの状況

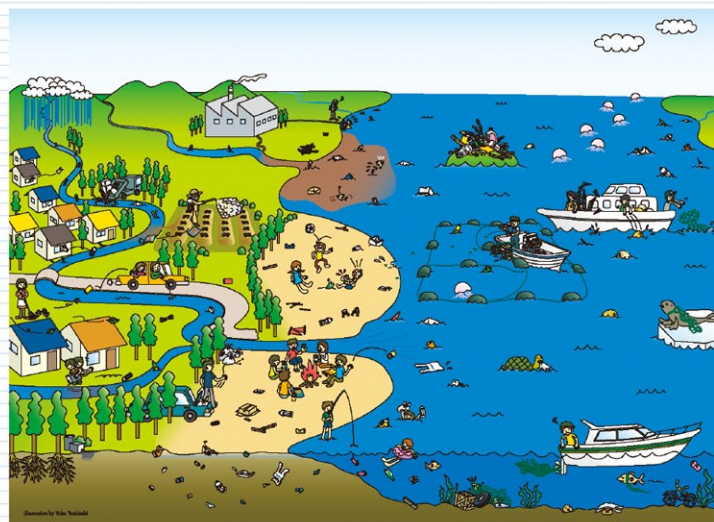
2008 年から 2010 年までの 3 年間に日本・中国・韓国・ロシアで実施された NOWPAP の海洋ごみモニタリングでは、約 500,000 個、36 トンにもものぼる海洋ごみが回収されました。それらの 73% を占めるプラスチックは最も一般的な海洋ごみであり、その内、16.5% が発泡スチロールでした (NOWPAP 2010)。プラスチックや発泡スチロールは日用品として広く使われています。

海洋ごみの起源

ほとんどの海洋ごみは陸域の様々な活動に由来しています。そのため、陸域で発生したごみが河川や海岸を通じて海へ流出することを防ぐことが重要です。

海洋ごみ発生抑制に係わる対策や優良事例

NOWPAP 参加国である日本・中国・韓国・ロシア各国では海洋ごみ発生抑制に係わる様々な対策が実施されており、これらの中には他の国や地域で活用できる事例もあります。このため、このパンフレットで紹介したような対策や優良事例について情報交換を進めることは、海洋ごみ対策を強化するうえで役立ちます。



関係機関・団体の協力ネットワークの構築

海洋ごみを回収処理し、海洋ごみ問題に関する普及啓発活動を実施していくためには、国、地方自治体そして NGO や NPO の連携ネットワークを構築・強化していくことが必要です。

行動しましょう！ 関係者間の連携体制の構築および強化

- 多くの関係者の参加の下で海洋ごみのモニタリング調査を実施することにより、
- ✓ 海洋ごみ問題の現状への理解を深めましょう。
- 関係政府機関、NGO や NPO、市民団体などの中での情報共有体制を構築しましょう。

優良事例 1：流域管理

韓国では、河川を通じた海洋ごみの発生を抑制するために、流域統合管理が導入されています。流域管理の導入のためには、上流域、下流域の関係者の連携が不可欠です。

韓国の 5 つの主要河川における流域統合管理



優良事例 2：統合情報システム

韓国では、国内の海洋ごみ問題について情報提供を行うため、2012 年に海洋ごみ統合情報システム (<http://info.malic.or.kr>) を構築しました。



優良事例 3：関係機関の協力ネットワーク

海洋ごみの問題に様々な関係者が協力して対応していくため、NOWPAP 地域では以下のような協力ネットワークが構築されています。

- ✓ クリーン馬山湾プロジェクト (韓国)
馬山湾の環境保全を目的として設置された国、地方自治体、民間企業、大学、NGO による連携体制です。
- ✓ 海洋ごみサミット (JEAN、日本)
国や地方自治体の職員、NGO や NPO、科学者等の参加のもと、海洋ごみサミットが毎年開催され、海洋ごみに関する様々な問題についての意見交換が行われています。



効果的な回収・清掃の実施

ごみの海域への流入を防ぐためには効率的かつ効果的に回収することが重要です。

行動しましょう！海洋ごみの効果的な発生抑制、回収、処理の促進

- ✓ 陸域でのごみの発生や海域への流出を抑制する費用対効果の高い対策を実行・拡充しましょう。
- ✓ 持続的な仕組みを構築し、海洋ごみの回収・処理の適切な費用分担を行いましょ。

優良事例4：陸域からの海洋ごみの発生制御

大連市（中国）では、陸域の発生源から海域へのごみの流入を防ぐため、次のような対策を講じています。

- ✓ ごみの排出管理の強化
- ✓ 港湾での廃棄物のリサイクル
- ✓ 環境保護および海岸清掃活動の実施

優良事例5：ごみフェンスの設置と費用分担システム

- ✓ 韓国では費用対効果の高いごみ回収方法として、河口部にごみフェンスを設置しています。
- ✓ 海洋ごみ処理の費用負担はきわめて重要な問題であり、韓国では海洋ごみの回収・除去費用を国と地方自治体が分担するシステムが導入されています。



韓国の河口域に設置されたごみフェンス

優良事例6：廃棄物処理施設

ロシアでは、収集した廃棄物を分別し、使えるものはリサイクルする複合的な廃棄物処理施設が稼働を開始しました。



ウラジオストックのごみ分別施設

普及啓発活動の強化

海洋ごみの量を減らしていくためには、消費者や海洋ごみの原因となる製品の生産者が海洋ごみ問題を理解し、消費行動や生産パターンを変えることが必要です。

行動しましょう！効果的な普及啓発活動の推進

- ✓ 海洋ごみ問題に関する認識を高めるための活動やイベントを実施しましょう。
- ✓ メディアの活用や学校教育を通じて、市民の認識を向上させましょう。

優良事例7：海洋ごみアート制作

海洋ごみを集めてアート作品を制作することで、海洋ごみ問題についての認識を高める独創的な取組が行われています。日本では2007年から海洋ごみアート展示会が行われており、子どもたち対象の講座も開講しています。



子どもたちによる海洋ごみアート作品の制作



海洋ごみアート作品

優良事例8：環境フォトコンテスト

韓国では、クリーン馬山湾プロジェクトの一環として、学生たちが撮影した環境をテーマとした写真のフォトコンテストを開催し、市民の意識向上を図っています。コンテストは地元テレビや新聞にも取り上げられ、注目を集めています。

優良事例9：民間企業による環境教育活動

ロシアでは、コカコーラ社、VostokStroySerice 社、PrimVodoKanal 社が陸域からの海洋ごみの発生抑制を目的とした環境教育活動を展開しています。



ロシア、サハリンのアニーバ湾における海岸清掃

優良事例10：海岸清掃・国際協力

✓ 海岸清掃は、海洋ごみ問題に関する市民の意識を向上させる最も基本的な手段です。アメリカの自然保護団体オーシャン・コンサーバンシーの主催により、毎年、世界各地で国際海岸清掃（ICC）を行っています。NOWPAPの4か国では、以下の団体がコーディネーターとして国内ICCキャンペーンを行っています。

中国：Shanghai Rendu Enterprise Consulting Co., Ltd.

日本：Japan Environmental Action Network (JEAN) and NPO Okinawa O.C.E.A.N.

韓国：Our Sea of East Asia Network (OSEAN)

ロシア：Sea Protection Institute, Maritime State University

✓ NOWPAPでも、各国における普及啓発を目的としてICCキャンペーンを実施しています。



山形県、ロシアのウラジオストックで開催されたNOWPAP ICCの様子

✓ 北東アジア地域自治体連合（NEAR）の環境分科委員会では、海洋環境保全を図るため、2000年に海洋ごみモニタリング活動を開始し、市民の意識向上および環境教育のためのプログラムの促進に貢献しています。

市民参加の呼びかけ

海洋ごみ問題に対処するための最も効果的な方法のひとつは、より多くの人々に参加していただくことです。一人ひとりが毎日の生活の中でなるべくごみを発生させないよう心がけることにより、世界各地の海洋ごみの量は減少します。

✓ **毎日の生活のなかで、できるだけごみを出さないようにしましょう。**
陸域で発生する海洋ごみのほとんどは、私たちの毎日の生活が原因です。ごみを出さないように、次のような点に注意しましょう。

- ✓ プラスチック製や発泡スチロール製の使い捨て容器をなるべく使わない
- ✓ 再利用可能な飲料ビンや金属カンの製品を選び、リサイクルする
- ✓ 店で買い物をするときには過剰な包装は断る
- ✓ ごみをリサイクルできるものとできないものにきちんと分別する

NOWPAP参加国の中には、レジ袋の無料配布をやめたところもあります。レジ袋は海洋ごみの中で数も多く、海岸でしばしば見られます。私たちがより環境にやさしい生活を送るためにも、食料品店で買物をする際は何回も使える買物袋を持参してレジ袋をもらわないようにしましょう。



✓ 海岸清掃活動に参加しましょう

海から遠い内陸部に住んでいると海洋ごみ問題の現状がなかなか理解できないかもしれません。そのためにも、海岸清掃などの環境教育プログラムに参加して、現場を見て、問題への理解を深めましょう。また多くのNGOやNPOが海岸清掃を定期的実施しています。それらのイベントに参加することが海洋ごみ問題の更なる理解につながっていきます。